

## 愛知地域会員懇談会

4月10日(火)、中経連は2018年度事業計画に対する意見交換を目的に「愛知地域会員懇談会」を名古屋市内にて開催し、豊田会長、中村副会長、柘植副会長、安藤副会長、愛知地域会員約70名が参加した。参加いただいた会員からの貴重な意見を、今後の事業活動に反映させていく。

### <参加者からの主な発言内容>

- 中部圏だけでなく、日本をリードし、国を動かす指針となるような活動にも取り組んでほしい
- イノベーションの促進をぜひ進めてほしい。製造業が集積する中部で、IoTの活用を進める意義は大きい
- 社会資本の老朽化対策についても声をあげてほしい。行政もインフラ更新の予算がつかず、手つかずのところが多いと聞く
- 中経連が広域ビジョンを策定するのはありがたい。行政の区割りを越えた活動をぜひ推進してほしい
- 企業・人材プールは大学側も大いに刺激を受けている。ぜひ活動を拡大してほしい
- 伝統工芸の振興に積極的に取り組んでほしい
- 海外経済視察団は大変勉強になる。事務局レベルの海外調査にもぜひ参加したい
- 中部圏へのインバウンドは他地域と比較して伸び率が少ない。観光客を呼び込む大胆な仕掛けが必要

(総務部 伊藤 康隆)



(株)日刊工業新聞社の  
嶋崎名古屋支社長

本WGは、南海トラフ地震発生の可能性が、平常時と比べて相対的に高まったと評価された場合の防災対応のあり方や、防災対応を実行するに当たっての社会的な仕組みなどについて検討するために設置された。メンバーは、福和教授(名古屋大学)をはじめとする学識経験者や川勝知事(静岡県)、尾崎知事(高知県)等19名で構成され、中経連からは栗原常務理事が出席した。

会合では、2017年9月に「南海トラフ沿いの地震観測・評価に基づく防災対応検討WG」が取りまとめた報告書の概要説明や、その後の政府の対応、モデル地区に選定された静岡県、高知県、中部経済界における検討の状況などについて報告が行われた。

メンバーから出された主な意見は以下のとおり。

- 経済(市民生活を含む)への影響を抑えるには、企業の大小に関係なく、事前の備えを社会全体でどうやって高めていくかの視点が重要
- 地震発生の可能性が相対的に高まったという情報が出た後に、その情報を解除できるのか。解除できるとした場合にも、いつ頃できるのかによって、影響は大きく異なるので、時間軸を視野にいられた丁寧な議論が必要
- 国が一律に号砲を鳴らす制度がなければ、自治体ごとの対応がバラバラになる
- 地域ごとの実情に応じた対応の多様性も認めるべき

本WGは今後、並行して進められるモデル地区での議論と連携を図りながら、避難、企業活動、必要な社会的な仕組みについて検討し、年内に一定の取りまとめを行う予定である。

(社会基盤部 小池 貴士)

## 南海トラフ地震 異常現象観測時の対応検討会議

4月12日(木)、政府の中央防災会議は、「南海トラフ沿いの異常な現象への防災対応検討ワーキンググループ(WG)」の第1回会合を開催した。

## 名古屋市立工業科高校生 ドイツ派遣報告会

4月18日(水)、中経連は「名古屋市立工業科

高校生ドイツ派遣報告会」を名古屋市内にて開催し、19名が参加した。

名古屋市立工業科高校生のドイツ派遣は、名古屋市教育委員会がグローバル社会の変化に主体的に対応できる専門的技術を持った人材の育成を目的に主催しており、昨年8月に名古屋市立工業高校・工業高校の高校生合計20名(2、3年生)がドイツ(ベルリン、ハノーファー、ヴォルフスブルク)を訪問した。本件は2016年度より実施され、今回は2回目となる。

報告会では、新3年生となった生徒7名が、フォルクスワーゲン社訓練センター、コマツ・ジャーマニー社での研修や産業施設視察、国際交流など、10日間の活動結果を報告した。質疑応答では、名古屋の都市デザインやグローバルコミュニケーション、現地で苦労したこと・気付いたこと、学校生活、将来の目標や夢など、参加者から多岐に渡る質問が寄せられ、各生徒がドイツ派遣での経験を踏まえて、自らの考えや感想を述べた。



(国際部 平山 りえ)

## ドイツ エアポートセールス

5月7日(月)～10日(木)、栗原中経連常務理事は河村名古屋市長等とともに、ドイツ・フランクフルトおよびライプチヒを訪れ、現在、中部-フランクフルト線を運航しているルフトハンザ ドイツ航空および中部国際空港に物流拠点のあるDHLグループに対して、中部国際空港のエアポートセールスを実施した。

### ルフトハンザ ドイツ航空

ルフトハンザ ドイツ航空のロルフ・トーマス取締役面に面談し、3月からのフランクフルト線の増便に対する御礼を述べるとともに、今後のデイリー化や機材大型化を要請した。

### DHLグループ



DHL社の欧州拠点であるライプチヒハブを訪れ、ラルフ・ウォンドラック ライプチヒハブCEOと面談。物流拠点として中部国際空港のさらなる活用および現在就航していない欧州への貨物専用便の開設を要請した。

(社会基盤部 和田 耕一郎)

## お 祝 い

春の褒章において、次の方が受章されました。

栄えあるご受章をお祝い申し上げますとともに、

今後も一層ご活躍されますことを祈念いたします。

(敬称略)

黄綬褒章 市川 周作 アイホン株式会社代表取締役社長